

2010 年 2 月の東北地方の天候

【 2 月の特徴 】

○気温の変動が大きい

○下旬の記録的な高温

(1) 2010 年 2 月の概況

上旬の中頃と中旬は寒気の影響で一時的に低温となったが、上旬の終わりと下旬は南よりの暖かい空気が入り高温となるなど、気温の変動が大きかった。特に下旬は高気圧におおわれて晴れたことに加えて南よりの暖かい空気が入ったため、旬平均気温はかなり高くなり、25 日には青森県・秋田県・岩手県の多くの地点で 2 月としての日最高気温の高い方からの 1 位の値を更新した。天気は、上旬は中頃に強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続いたため、東北日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多かった。中旬は本州の南岸や日本海を気圧の谷が短い周期で通過したため、曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では寡照となった。下旬は高気圧におおわれて晴れの日が多かったため、東北日本海側を中心に多照となった。

月平均気温は東北地方で平年並。月降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。月間日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 64% と少なく、東北太平洋側で 65% と少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬： 1 日から 2 日にかけて本州南岸や日本海を低気圧が通過した影響で曇りや雪または雨となった。低気圧の通過後は強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は曇りや雪の日が多かった。東北太平洋側も北部や内陸部を中心に曇りや雪となり、沿岸部でも雪の降る日があった。期間の終わりには冬型の気圧配置は緩んだが、本州南岸の前線や低気圧の影響で曇りや雨または雪の日が多かった。なお、6 日は強い冬型の気圧配置となった影響で、秋田県で強風による被害や交通障害が発生した。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。

中旬： この期間、本州の南岸や日本海を気圧の谷が短い周期で通過し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となった。そのため、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多かったが、高気圧におおわれ晴れる日もあった。東北太平洋側は気圧の谷の影響で曇りの日が多かった。寒気の影響を受けやすく、気温の低い日が多かった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり少ない。

下旬： この期間、高気圧におおわれて東北日本海側を中心に晴れの日が多く、また、南よりの暖かい空気が入ったため、気温の高い日が多かった。特に 25 日は顕著な高温となり、青森県・秋田県・岩手県の多くの地点で 2 月としての日最高気温の高い方からの 1 位の値を更新した。期間の終わりは、前線や本州南岸を通過した低気圧の影響で、東北太平洋側を中心に曇りや雨または雪となった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。

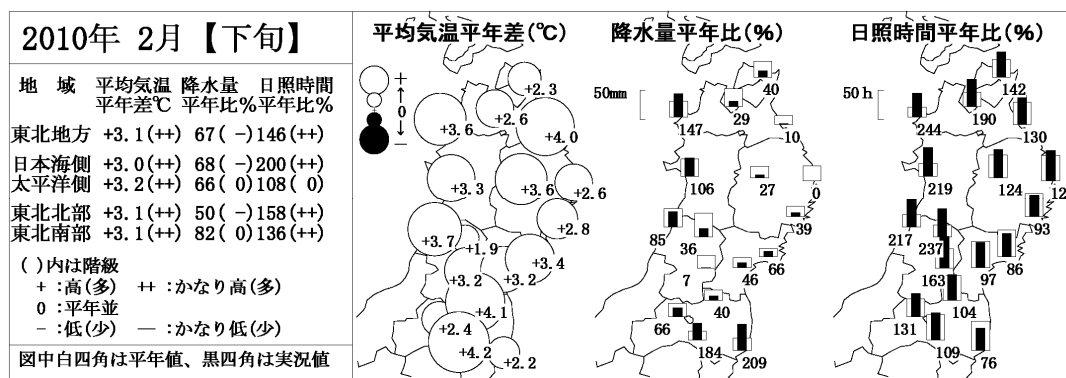
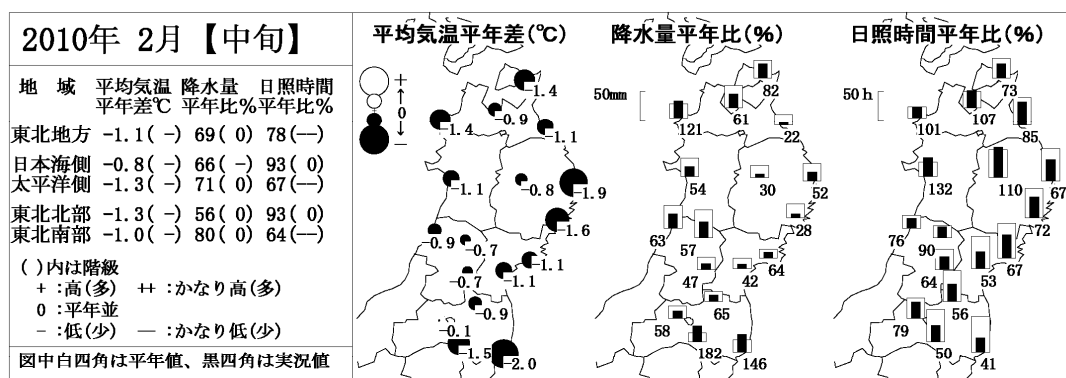
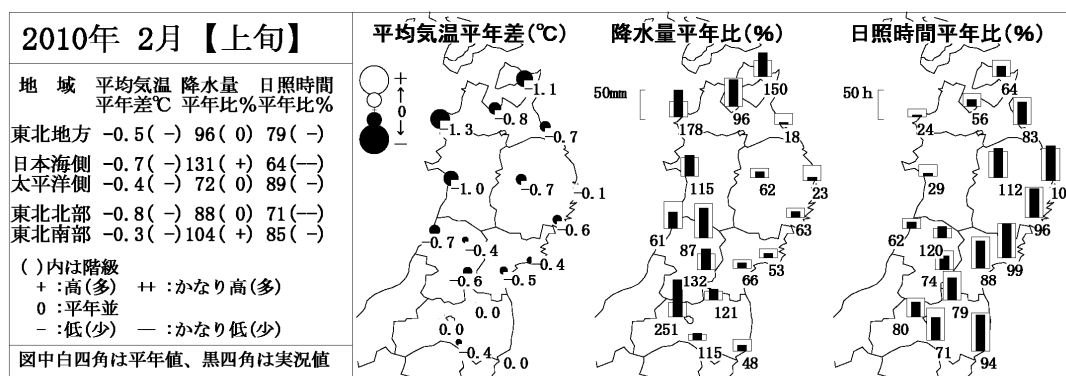
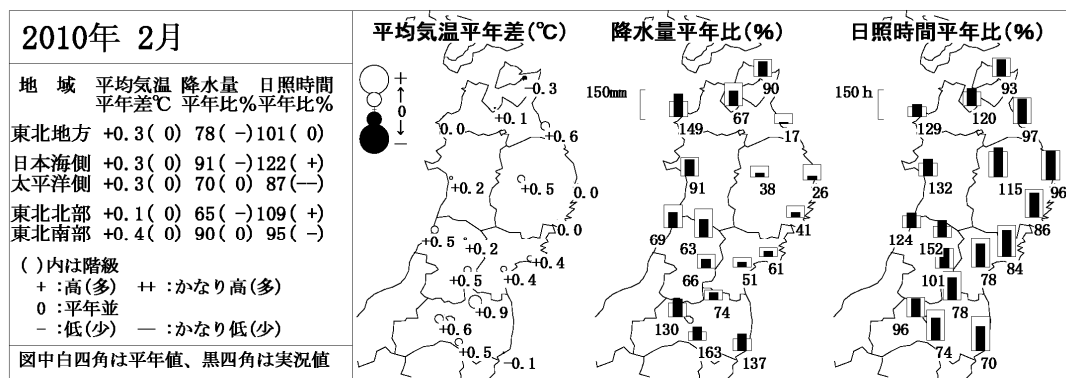
(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。

細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2010年2月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2010 年 2 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数			日照時間(平年比) 階級			降雪深さ(平年値)階級			最深積雪(平年値)階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)		≥1mm			(h)	(%)		(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	
青 森	-1.0	(+0.1)	○	77.5	(67)	—	16			87.8	(120)	+	112	(205)	—*	87	(111)	—
深 浦	-0.2	(0.0)	○	115.5	(149)	+*	17			63.1	(129)	+	102	(114)	○	31	(42)	○
む っ	-1.8	(-0.3)	—	76.0	(90)	○	15			85.0	(93)	○	117	(160)	—	68	(66)	○
八 戸	-0.3	(+0.6)	+	9.0	(17)	—*	5			128.3	(97)	○	18	(103)	—*	6	(28)	—*
秋 田	0.4	(+0.2)	○	84.0	(91)	○	15			86.6	(132)	+	83	(120)	—	19	(37)	—
盛 岡	-1.1	(+0.5)	○	21.0	(38)	—	6			148.1	(115)	+	39	(98)	—*	26	(33)	○
大 船 渡	0.9	(0.0)	○	24.0	(41)	○	5			122.6	(86)	—*	29	(27)	○	13	(9)	+
宮 古	0.3	(0.0)	○	21.0	(26)	—	3			145.7	(96)	○	42	(72)	—	18	(29)	○
仙 台	2.1	(+0.4)	○	24.5	(51)	—	8			118.6	(78)	—*	18	(31)	○	6	(13)	—
石 巻	1.3	(+0.4)	○	27.0	(61)	○	7			137.3	(84)	—*	13	(24)	○	7	(13)	—
山 形	0.3	(+0.5)	○	46.5	(66)	—	13			100.0	(101)	○	86	(147)	—*	32	(46)	—
新 庄	-0.8	(+0.2)	○	91.5	(63)	—*	18			85.3	(152)	+*	136	(242)	—*	106	(123)	○
酒 田	1.9	(+0.5)	○	79.0	(69)	—	15			74.5	(124)	+	63	(119)	—	8	(30)	—
福 島	2.7	(+0.9)	+	37.0	(74)	○	7			112.9	(78)	—*	37	(73)	—	18	(18)	○
若 松	0.2	(+0.6)	○	91.5	(130)	+	15			93.5	(96)	○	103	(160)	—	55	(46)	+
白 河	1.0	(+0.5)	○	67.5	(163)	+	12			113.0	(74)	—*	65	(51)	+	16	(14)	○
小 名 浜	3.6	(-0.1)	○	85.0	(137)	+	9			123.2	(70)	—*	()	()		()	()	

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

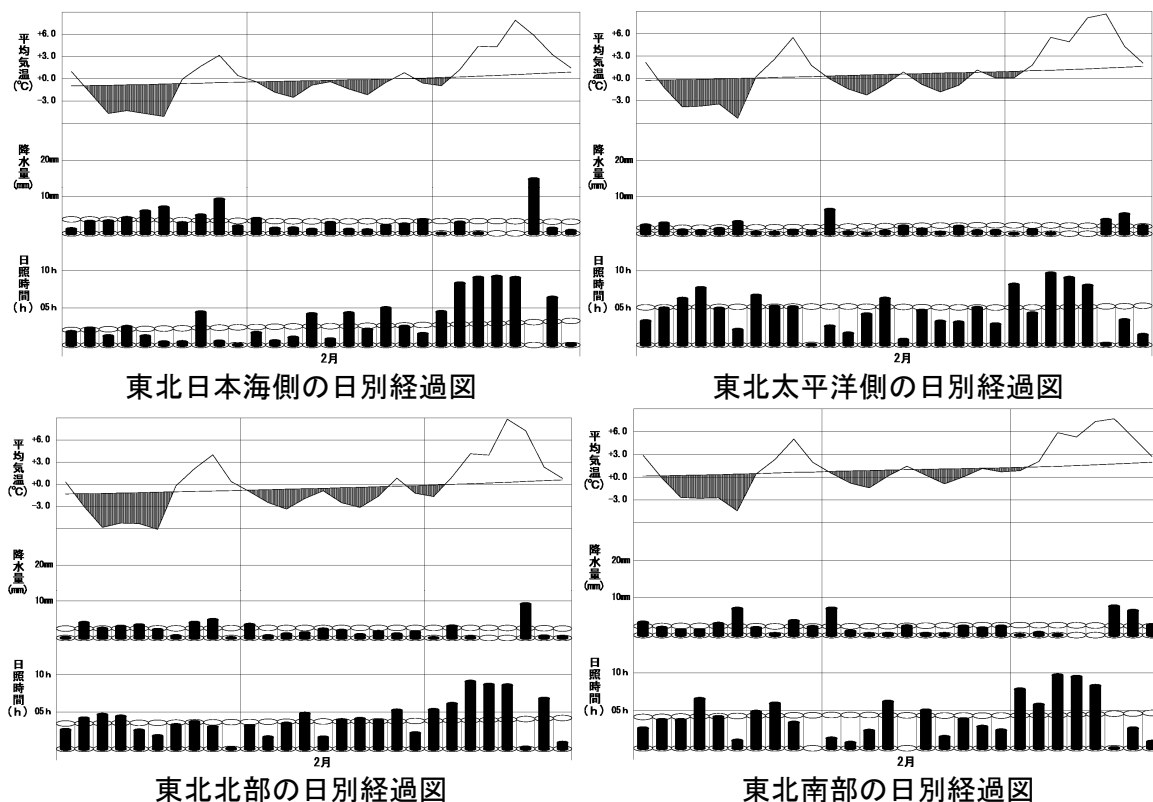
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2010 年 2 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2010 年 2 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

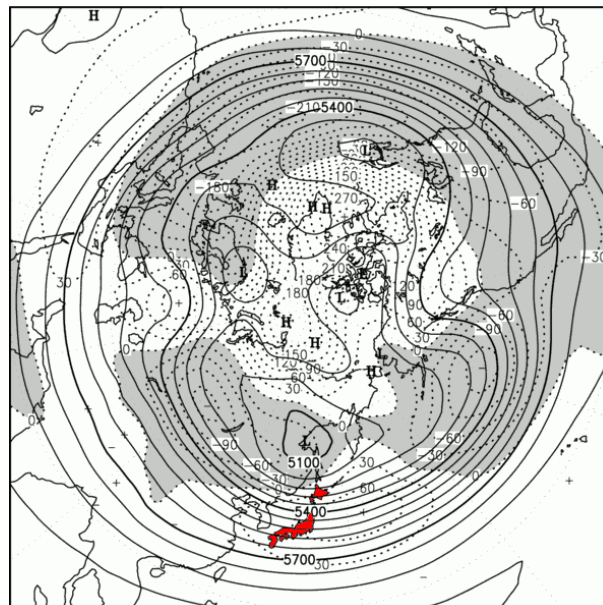
順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	白河	113.0	74	108.1 (1957)	1940	152.4

降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

（7）2010年2月の循環場の特徴

500hPa 高度では、極域が正偏差、中央シベリアから日本の北、アリューシャン近海にかけて負偏差で、寒気放出傾向だった。これは、上旬の中頃の顕著な低温や中旬の低温など、寒気の影響を受けやすい時期があったことと対応している。一方、日本付近は日本の東海上を中心に広く正偏差で、冬型の気圧配置が長続きせず、上旬の終わりの高温や下旬の顕著な高温など、南よりの暖かい空気が入りやすい時期があったことと対応している。



2010年2月の平均500hPa高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）